［第180回藤樹人間学塾のご案内］



皆さま　　2026 年 11 月吉日

- 主　催　NPO法人高島藤樹会
- 日　時　2026　年 12 月　5　日　（土）　15時～17 時
- 場　所　高島市安曇川公民館（高島市安曇川町田中89）☎0740-32-0003
- テーマ　「藤樹先生に学ぶ人間学」
  テキスト　熊沢蕃山著・伊東多三郎現代文訳『集義和書』（中央公論社）p.281～
- 塾　長　　田中 清行（090－1026－7882）
- 参加費　　無料（予約不要・どなたでも歓迎）



2026 年 11 月 7 日（土）、安曇川公民館で第 179 回「藤樹人間学塾」を開催しました。
今回は京都から 1 名、大津から 2 名を含め、7 名（うち女性 1 名）の道友（共に学ぶ仲間）が集まり、学び合いました。

■ テキスト『中江藤樹・熊沢蕃山』（中公バックス日本の名著 11）「集義和書」巻十三　義論の六（仁は全徳の名、礼の用、治国の三大事）を輪読し、参考資料も交えて解説しました。。

■ 今日の学び

【仁は全徳の名】

仁はすべての徳の名。わが心が太虚（大宇宙）、天地の間に達していないと、まだ仁があるとは言えない。義（正義）にしたがって無心であるときに、はじめて仁と言える。天地（大宇宙）の陰陽、人生の順調・逆境も、みなわが身に備わっている。（全孝図を使って説明しました）

【礼の用】

礼の用とは、礼（礼儀）が行われている場合を指す。シンプルに考えれば、時・処・位に応じて礼を行えば行いやすい。天下のことは、礼と楽（礼楽）が根本である。

【治国の三大事】

治国の備えは政治である。孔子は「食を足し、兵を足し、民之を信にす」という。すなわち、為政者は経済を回して適正な課税をし、軍才のある者を集めて軍備を適正に整備し、仁義礼智を備えて民から信頼を得られなければならない。

【途上国に希望の光を灯してきた】

吉岡秀人さん（小児外科医）、山口絵里子さん（マザーハウス代表）の記事（出典:「致知　2026.11」）から、執着を手放し、現場で一歩を踏み出す―途上国に希望の光を灯してきた軌跡を紹介しました。

■ フリートーキング（参加者の声）

・「徳が衰えるにしたがって、礼法が繁多になるものである……これは納得性がある」
・「孔子は徳による政治、韓非子は法による政治を標榜しているが、互いに相対的な概念である」
・「山口さんが誰にも頼らずに積み上げた小石は簡単に崩れない、という強固な自立心を持っておられるのが凄いと思った。テキストは難しいが、参考資料や解説は分かりやすい。感謝」
・「中江藤樹を尊敬していた郷土の偉人、清水安三も『夢を持て』と言っている」

など、活発で味わい深い意見交換が行われました。 学ぶは愉し！

～人間学に関心のある方はどうぞご参加ください。